

【高等学校用】

令和6年度学校 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立太良高等学校
-----	------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

様式1（高等学校）

- 1 前年度評価結果の概要
- ・研修会や講演会等を通して、生徒の特性に対する教職員の理解を深めることができた。今後も特別支援教育の専門性向上に努めていきたい。
 - ・いじめの未然防止及び早期発見・早期対応に努めることにより、安全安心な学校生活の確保に取り組むことができた。
 - ・学校運営協議会も2年目を迎え、委員の構成等の見直しを進めた結果、活発な意見交換がなされ、先駆的な取り組みを行うことができ、より充実した一年となった。
 - ・体験学習などこれまでの地域とのつながりを継続しながら、唯一無二の誇り高き学校づくりに取り組むことができた。
 - ・太良町文化祭やSAGAコラボレーションスクール成果発表会など、学校外への広報活動を積極的に進めることができた。・研修会や講演会等を通して、生徒の特性に対する教職員の理解を深めることができた。今後も特別支援教育の専門性向上に努めていきたい。

- 2 SAGAスクール・ミッション
学校教育目標
- インクルーシブ教育を通して、他者を思いやり、多様性を認め合うことのできる豊かな心を育み、すべての生徒が安心して学べる学校の実現を目指す。
・太良町との協働的な学びや体験活動を通して、主体的に関わり、共に生きていく心を育て、地域社会に貢献できる人材を育成する。

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー 1 強みを伸ばし、自立したいと強く願っている生徒 2 地域に積極的に関わりたいと思っている生徒 3 社会に貢献できるようになりたい生徒	カリキュラム・ポリシー 1 地域と連携・協働し、創造する力を育てる教育課程を設定します。 2 様々な体験活動を通し、主体的に行動する力を育てる教育課程を設定します。 3 他者を尊重し、自己を知るために、教育活動の中で、互いに学び合う場を設けます。	グラデュエーション・ポリシー 1 答えのない問題に向き合い、新たな価値を生み出す創造力を育成します。 2 自分で考え、主体的に行動する、責任ある行動力を育成します。 3 他者を尊重し、対立を克服する調整力を育成します。	4 本年度の重点目標	1 頁の学力（自分で考え行動し、責任を持つ）を育成する 2 生徒の主体性を高め創造力を育成する教育活動の実践 3 地域と協働した教育活動の活性化
-------------	---	--	--	------------	--

5 重点取組内容・成果指標

重点取組				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○生徒個々人の能力や特性に応じたきめ細やかな指導の充実	○授業研究週間の年間2回以上の実施 ○ICT機器等を活用した授業を心掛けた教員90% ○1年生の授業を中心に、AI副教材「すらら」を活用した「学び直しの時間」を取り入れた授業を実施した教員80% ○授業評価アンケートの中で「授業内容が分かった・理解できた」と回答する生徒が80%以上を目指す	・少人数指導、習熟度別指導、チームティーチング、リメディアル教育を通して、授業改善を推進する。 ・プリント教材の精選や、AI副教材「すらら」を活用することで生徒一人ひとりの学力にあった学習を授業の中や、朝HRの時間などを活用し、学習に取り組む時間を身に届けさせる。 ・授業プリントの精選を行い、全員が分かる、できる授業を行う。 ・授業のまとめとして振り返りアンケートを実施し、理解の定着度を把握する。生徒がつまづいた箇所を具体的に把握し、次時の授業に役立てる。	A	・1年生を中心に朝のHRの時間や、一部の授業、自習時間を活用して「すらら」を取り入れた学び直しの時間を導入した。 ・「ベネック数学」では、AIドリル「すらら」を活用したり、不登校生徒に対するオンライン授業を行ったりして、個に応じた学習に取り組む。すべての生徒が「わかりやすい」「ややわかりやすい」と回答した。（数学科） ・すべてのプリントにかなをふったり、視覚教材を多用したりして、生徒が理解し、興味関心を高める工夫を行った。（地理公民科） ・学びなおしができるようにしたり、生徒同士の活動（教えあい等）を入れたりして積極的に授業に参加できるようにした。（国語科、英語科） ・PowerPointを使用し、視覚的に教材等を提示し、わかり易い授業を心がけ実施した。また、teamsを活用し、課題を出し、生徒と双方向のやり取りを行った。（保健体育科） ・グループワークや実習、演習を多く取り入れ、95%の生徒が授業に積極的に参加していると感じている。（家庭科）	A	・一人一人の学力にあった教材により学習の習慣が身につき、積極的に次の課題へと進めている。理解の定着度やつまづいた箇所の把握は常に続けてほしい。 ・個人の能力に応じてきめ細やかに対応することで、学力の底上げに繋がったことを評価します。	教務主任 進路指導主事 各教科主任
	○多様な評価方法に対応できる指導方法の研究実践	○多様な学び（UDL）の研究に取り組んだと回答した教員90% ○生徒が「授業が分かり易い」と回答した割合が85%	・「主体的、対話的で深い学び」の実現のための教材開発・授業実践を推進する。 ・「情報」やHR活動を活用した情報セキュリティ、情報モラル教育を実施する。 ・客観的な検査指標を利用した生徒理解を推進する。 ・月1回以上の生徒支援委員会を通して生徒理解・特性理解や支援を推進する。 ・SCの活用を通して、生徒の支援体制の充実を図る。	A	・6月、12月に授業研究週間を設け、同教科のみならず他教科の参観を実施した。また、8・9月にはメタバースを活用したオンライン授業を実施し、ICTを活用した工夫した授業も見受けられ、多くの教科で今後参考となる取り組みになった。また、11月からは不登校生徒を対象としたオンライン授業の実施、評価方法の検証などを行い、今後も検証を続けていく。 ・基礎学力を鍛え「基礎力診断テスト」を実施し、生徒の変化や成長を確認する機会を作ることができた。	A	・学校の特性上、メタバースの推進は素晴らしいと思います。 ・不登校生徒のオンライン授業の評価方法の検証をしっかりとやりやてほしい。オンライン授業の使い方次第では今後の太良高校の強みになると思う。	教務主任 企画研修部主任 (できる授業担当者) ICT活用推進リーダー 進路指導主事
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育推進教師を中心とする道徳教育推進のための職員研修会1回以上実施 ○Q-U等を活用した生徒面談1回以上実施	・人権尊重のための講演会を実施する。 ・「情報」やHR活動を活用した情報セキュリティ、情報モラル教育を実施する。 ・客観的な検査指標を利用した生徒理解を推進する。 ・月1回以上の生徒支援委員会を通して生徒理解・特性理解や支援を推進する。 ・SCの活用を通して、生徒の支援体制の充実を図る。	A	・学年集会や生徒指導講話、ホームルームを通して人権教育を行った。 ・毎週の学年会や毎月の生徒支援委員会の中で、十分な生徒の情報共有を行い、生徒理解・特性理解を深め、支援内容を検討した上で、支援を行った。 ・SCと職員の連携を密に行いながら、時に福祉課とも連携を行い、必要に応じて病院につなげたり、児童相談所につなげたりするなど生徒の支援体制の充実を図った。	A	・現代は様々なストレスの要因があるので、万が一の時に備え、福祉課や病院等との連携があれば地域としても安心できる。 ・生徒理解、特性理解はとても大事な必要。必要に応じて支援いただいていることはとても有難い。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者 「情報」担当者 生徒支援部副主任 各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○佐賀県いじめ防止基本方針の理解及び組織的な対応の実践が「よくできている」と回答した教職員90%以上	・学校生活アンケートを年2回以上実施する。 ・いじめ防止に関する保護者への啓発活動を充実させる。 ・いじめ防止に関する職員研修会を実施する。 ・生徒の様子に気を配り、生徒の話を聞く中で、早期発見、早期対応に努める。	A	・年2回学校生活アンケートを実施した。記載があった内容については、いじめ対策委員会を実施し、組織的に対応できた。 ・事業については、全て複数の職員で対応し、保護者との情報共有も徹底でき、早期発見、早期対応ができた。 ・他者とのコミュニケーションの取り方に関する学習を全学年を対象に実施できた。	A	・生徒の日々の変化に気づけるよう、家庭との連絡を密にほしい。 ・メタバース、オンライン等も積極的に利用することによって、直接言えない悩みなども拾えるかもしれない。	生徒支援部主任 生徒支援部副主任 各学年主任
	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	○「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒80% ○体験学習やボランティア活動を通して、「地域の方とコミュニケーションをとることができたと感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒60%以上	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語リ」等を活用した授業に取り組む。 ・郷土の人材を活用した講演会・体験授業を実施する。 ・地域の人々と関わる体験学習やボランティア活動の実践	A	・「郷土学習」の授業では県内の伝統ある場所に赴き、佐賀県の文化や郷土資料等を直接見に行くとでき、教科書だけでは学ぶことができない学習に取り組んだ。後期は、講演会を開き、全校生徒に向けた教育活動を行った。 ・水曜日⑤⑥限目のボランティア活動、金曜日午後の体験学習はもちろんのこと、自主的に参加するボランティアも積極的に参加した。SCS成果発表会では堂々とその成果を発表した。 ・さがを誇りに思う講演会後、生徒の80%が佐賀県に誇りや愛着を感じる」と回答した。	A	・太良町の郷土、伝統・伝承芸能を引き継ぐ動きは大変素晴らしい。 ・HOT Challengeの実践を通じ、住民との触れ合いが深まったと感じた。次年度の更なる成長を期待したい。	教務主任 企画研修部主任 (さがを誇りに思う教育の推進講演会担当) 生徒会担当者 各学年主任

5 重点取組内容・成果指標

共通評価項目				重点取組				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言					
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	●規則正しい生活習慣（起床、就寝等の時間）を身につけ、十分な睡眠時間の確保65％以上	・年2回の健康調査を通し、自己の体調管理を把握させる。 ・講師を招き、健康教育を充実させる。 ・保健だよりや集会等の講話を通して、望ましい生活習慣の啓蒙を図る。	A	・健康調査を2回実施し、睡眠時間6時間以上の生徒は71％だった。	A	・自己の体調管理を把握させることは必要。皆間じとはいかないので、個々の対応をお願いしたい。 ・次年度は自己評価の方法に工夫が必要と思う。	保健主事 養護教諭 食育推進担当者				
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「栄養バランスの良い食事はどんなものか」を理解している生徒70％以上 ●健康と食事との望ましい関係について理解している生徒70％以上 ●健康のために食生活の工夫を実践している生徒65％以上	・食事・健康に関するアンケートを年2回実施し、健康教育を充実させる。 ・保健だよりや集会等の講話を通して、望ましい食習慣や食の自己管理能力への意識を高める。	A	健康調査を2回実施し、以下の結果を得た。 ・「栄養バランスの良い食事はどんなものか」を理解している生徒93％以上 ・健康と食事との望ましい関係について理解している生徒100％ ・健康のために食生活の工夫を実践している生徒83％以上	A	・生徒に対し「何故バランスの良い食事が必要なのか」を学ばせる機会の必要性を感じた。 ・健康のための食生活について、生徒だけでなく保護者と一緒に考えることもいいのではないかな。	保健主事 養護教諭 食育推進担当者				
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年次休暇を年間15日以上取得する。 ●実効性のある月曜日、金曜日を定時退勤推進日とする。	・定時退勤日を設定する。（毎週月曜・金曜） ・学校閉庁日を設定する。（8月9日～16日） ・部活動休業日を設定する。	B	・定時退勤日を月金曜日とし、朝礼で呼びかけた。 ・1月末までの時間外在校時間が80時間/月の職員はいなかった。また、全体の45時間/月以上は19名（昨年対比17名減）で、平均は22.44時間（昨年対比2時間減）であった。 ・年次取得については、12月末までに15日の年次取得を職員に呼びかけており、12月末現在で一人当たりの平均取得日数は114日3時間27分である。今後もワークライフバランスの重要性を呼びかけ、快適な環境づくりを推進していく。 ・部活動休業日については、各部活動とも適切に取得できている。	B	・計画的に進められ、ほぼ目標が実現できている。 ・働き方改革に基づいた業務の改善は他事業でもテーマとなっている。善悪の判断はさておき、先生方がボランティア活動に参加していない（土・日）ことで生徒の参加率も低くなったように思う。地域住民との触れ合いといった点からすると残念である。	管理職			
●特別支援教育の充実	○学習面や生活面で様々な困り感を抱える生徒へのきめ細やかな支援や相談の充実	○学習面や生活面での支援を受けることで困り感が軽減された」と回答した生徒の割合が70％以上	・授業におけるUDLに基づいた教育的配慮による教育課程 ・特別教育支援員による通常の学級での支援を必要とする生徒に対する補助的な支援	A	・特別教育支援員による授業時の支援、観察が十分にいきなり、生徒の状況等の把握がよりできるようになった。 ・担任・学年主任を中心として学年全体で生徒に関する情報の共有ができ、より細やかな対応ができた。 ・月1回の生徒支援委員会においても、より具体的な生徒の支援計画等についての協議がなされるようになり、支援内容が明確になった。	A	・特別教育支援員はなくてはならないと思う。必要な人数を配置してほしい。 ・本年度は生活に困った生徒（世帯）に、組織的に対応した経緯があった。学校側の迅速で本人に配慮した対応が素晴らしいかった。	保健主事 生徒支援部副主任				

(2)今年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	達成度 (評価)	最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)			実施結果	学校関係者評価 意見や提言	
★唯一無二の 誇り高き学校づく り	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報 発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合を8 5%以上とする。 ★県外からの入学者数8人以上	・地域・企業等と協働した学校運営を行う。 ・学校の定期更新やYouTubeへのLive配信を含めた動画の投稿、Instagramの新規立ち上げ等SNSを活用した学校の 魅力発信を行った。 ・「たらこうフレンズ」や「たらスタ」など生徒主体の活動が活性化し、魅力ある学校づくりにつながった。	A	・地域連携型のカリキュラムHOT Challengeで4名の生徒がボランティア活動での単位を修得した。 ・学校の定期更新やYouTubeへのLive配信を含めた動画の投稿、Instagramの新規立ち上げ等SNSを活用した学校の 魅力発信を行った。 ・「たらこうフレンズ」や「たらスタ」など生徒主体の活動が活性化し、魅力ある学校づくりにつながった。	「自分の学校を中学生に勧めることができる」生徒の割合(目標85%)が、75.8%であり、目標値に届いていないのが気になる。その要因をさらに探り対応 ができればと思います。 ・生徒主体の活動が目立ってきて、とても魅力的な学校となっている。	企画研修部主任 主幹教諭
○広報活動の 充実	○魅力的な情報発信の継続 ○中学校、保護者、地域社会から信頼を得るため の取組の推進	○学校通信「HOT通信」の月2回以上の発行 ○学校説明会、体験入学、オープンキャンパス参加者へのア ンケート調査結果による満足度90%以上	・掲載内容を精選し、充実した内容で学校の魅力をPRできる学校通信を 発行する。 ・生徒広報委員会を組織し、学校の魅力を積極的に発信する。	A	・HOT通信の定期発行と合わせて、学校HPへの投稿も行い、学校の魅力を多くの方に知ってもらうことができた。 ・中学生やその保護者の個別の訪問にも対応し、本校の特色ある授業や学校の取り組み等をPRすることができた。	・学校のHPは常に新しい情報が発信され、とても楽しみにしている。 ・Hot通信など魅力的な情報発信がなされていると思うが、入試内容とともに学校の 教育内容と生徒の姿を分かりやすく伝えられるとなお効果的ではないか。例えば、 他校のトップページにあるYouTube動画などで示されているようなものを配信でき ると、その魅力が学校選びの動機につながるのではないかな。	企画研修部主任 主幹教諭
○通級指導の 実践	○自立活動の理解と実践 ○計画的な情報発信の実践	○自立活動の基礎知識に関する周知率90%以上 ○自立活動選択者の授業満足度90%以上	・月1回以上の通級指導委員会を通し、生徒に関する情報を共有する。 ・自立活動に関する教職員研修会を実施する。	A	・月1回の通級指導委員会では生徒の状況把握や支援の推進に繋がることができた。 ・自立活動のテーマの職員研修会を実施し、事後アンケートでは100%の教員が特性への理解できたと回答した。また生 徒の状況把握が向上し、日々の生徒支援に活かされている。 ・授業後の振り返りでは、90%以上の生徒が、自己理解が深まったと回答した。	・専門的知識の必要な活動なので、日々研修に取り組んでいたが、 ・自己理解の深まりは意義深い。	通級指導(自立活動)担 当者

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価 次年度への課題	「できる授業」の実践を各言葉に、学び直しの授業ではIT副教材を導入することで、生徒一人ひとりに合った教材が提示ができ、きめ細やかな対応ができた。 ・教科担当者が学習用p、電子黒板などを効果的に活用し、より視覚的に教材を提示すること、わかりやすい授業の実践ができた。 ・生徒会を中心に生徒が主体的な活動に取り組む機会が増え、少しずつ自己表現をする力を身につけ始め、自信を深めている。 ・HOT Challenge等のボランティア活動に参加することで、生徒が積極的に地域住民との交流を深め、地域課題の解決に取り組んでいる。 ・地域のお祭りや行事に参加することで、地域文化の継承に貢献している。 ・生徒が地域の方々と連携した様々な教育活動の成果発表会を開催し、主体的に学びの成果を発信する力を高め、人としての自信を深めている。
-------------------	---